



平成24年度

# 奥州めぐみネット定期総会



3月3日(土)13:30 より、市民プラザ マッセ(メイプル内)にて、定期総会を開催しました。委任状出席も含め、66名の出席がありました。

定期総会では、平成23年度の活動や決算の報告があり、平成24年度の活動計画や予算について話し合いが行われました。

### 代表あいさつ

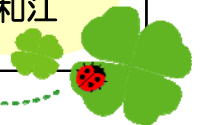
一昨年3月に設立した当会は、今年で3年目を迎えますが、昨年発生した東日本大震災により、本市も甚大な被害を受け、また、原子力発電所の事故に伴う放射能の問題は、私達の生活基盤に大きな影響を与えています。私達の活動は、こうした新たな問題を含め、自然環境・生活環境の保全、地球温暖化防止、廃棄物の減量化・資源の再利用・再使用の活動などを積極的に展開し、「誇りを持って、美しい自然と住みよい生活環境を、次の世代に引き継ぐ」ことが出来るよう、行動する組織として今年度も活動してまいります。



奥州めぐみネット 代表 高橋貞勝

### 新役員紹介

- |               |       |
|---------------|-------|
| 代表            | 高橋貞勝  |
| 副代表           | 中井 慶  |
| 会計監事          | 菊池典郎  |
|               | 高野紀代  |
| 資源循環・廃棄物部会部会長 | 佐藤恭彦  |
| 副部会長          | 松芳トミ子 |
| 自然環境部会部会長     | 鈴木輝男  |
| 副部会長          | 安倍 進  |
| 生活環境部会部会長     | 建部 信  |
| 副部会長          | 三浦芳子  |
| 環境学習部会部会長     | 阿部利朗  |
| 副部会長          | 若生和江  |



# 平成24年度各部会活動計画

## 資源循環・廃棄物部会

ポイ捨てや不法投棄は無くなることはありません。生活環境を良くしていく取り組みは継続こそ大切と考え、23年度に引続き24年度も以下の活動を行います。



- ① 不法投棄防止パトロール活動…不法投棄発生場所の調査及び原因の分析と防止策の検討。
- ② 環境美化活動…不法投棄物の片付け。
- ③ 視察研修…環境保全を活発に行っている企業の視察研修。
- ④ マイバック活動…マイバック普及啓発活動。フォーラムでのアンケート調査。



## 生活環境部会

自然エネルギーなどに関する施設見学をとおして、部会員に学習する機会を提供するとともに、DVD等の教材により当市の環境について考える活動を進めます。



- ① 全国の自治体の環境活動について学ぼう！
- ② 環境に配慮した暮らしを学ぼう！
- ③ 電源開発による生態系への影響を探ろう！…「クニマス」の絶滅で知られる田沢湖の電源開発について学習。
- ④ 産業廃棄物不法投棄事件の現場を見学しよう！…「青森県・岩手県境産業廃棄物不法投棄事件」現場の見学。
- ⑤ 国内初の実用発電所「松川地熱発電所」を見学しよう！
- ⑥ 葛巻町の風力発電所を見学しよう！
- ⑦ 原子力発電について学ぼう！…原子力発電の安全性と現状について学習。
- ⑧ 食の安全について学ぼう！



## 自然環境部会

協働プロジェクトの推進を図るため、過去2年間実施したビューポイント発見ツアーを継続するほか、自然と直接ふれあうことができる自然観察会を新たに加え活動します。

なお、引き続き自然環境のデータベースの作成に取り組みます。

- ① 自然観察会…自然環境とのふれあい。年4回実施。
- ② ビューポイント発見ツアー…定例行事として実施。
- ③ 北上川を守る活動…旧松尾鉱山跡地での植樹活動に参加。
- ④ 自然環境データベースの資料収集…自然環境データベースの基となる情報を地図に記入。



## 環境学習部会

身近にある奥州の自然について実際に歩き、また、見学・観察するなど体験する機会を市民に提供します。



- ① 「エコの楽校」
  - ・「エコの楽校」の設置に向けた検討。
  - ・「奥州の自然」の編集に向けた資料収集と情報交換。
  - ・環境学習講座「奥州の大地、草花、鉱山などについて学ぼう」の実施。
- ② おうしゅう環境フォーラム2012…市の環境を知る機会の提供や次代に伝えていく機運づくり、参加者相互の交流やネットワークづくりを目的に、江刺区で開催。
- ③ 他市町村の視察…他市町村の環境保全団体との交流や学習。





特別講演

# 森林・林業に光が!!

～林業再生プランで地域活性化を図ろう～

定期総会の特別講演は、政府の掲げる新成長戦略「森林・林業再生プラン」の第一人者である岩手大学農学部教授岡田秀二氏により「森林・林業に光が!!～林業再生プランで地域活性化を図ろう～」と題して行われました。氏の講演に先立ち「僕の話だけでは眠くなると困るから」ということで、「森林についての簡単なお話」と題して、(財)東北開発研究所専門員で奥様の岡田久仁子氏より世界の森林、日本の森林の概要説明がありました。

まずは、久仁子氏のお話から。

世界全体では森林率は 30.3%、1人当たりの森林面積は 0.6ha、日本の森林面積は約 2,500 万 ha で森林率は 68.2%、1人当たりの森林面積は 0.2ha、その4割が人工林である。世界で最も人工林の占める割合が多くその森林資源の 30%が国有林で残りの 70%が民有林である。岩手県は北海道に次ぐ本州一の森林県で、森林面積は県土面積の 77%(118 万 ha)、うち 42%が人工林である。その人工林のうち緊急に整備が必要な森林が 19 千 ha ある。50 年生以上の木が増加し森林の蓄積量は充実しているが、若齢林は少なくバランスが悪い状態で、採算性も厳しく必要な森林整備ができないのが現状である。



それではどうしたらよいでしょう？

…ここで秀二氏にバトンタッチ。

この続きは「森林・林業再生プラン」で。

これまでの政策で間違えたのは、森林を個人財産化したこと、この政策により森林を閉じ込めてしまった。森林は海や空気と同じ、書かれざる掟としてかの地に暮らす人々のものとして美しく育まれてきた。豊かな森林をふまえた森林化社会をもう一度つくりあげていくことがこの政策、新しいしくみは流域で一体化して生産性を上げていく。

木が太るためには太陽、木が伸びるためには土壌、人が上手に織り成して行ける山の高さは中国地方と東北地方で、豊かな森林に囲まれている岩手は雨の量、土壌、山の形といい森林を基軸に成長していけるところ。「いわての森林づくり県民税」は約7億円、県民と森林をつないでいる。森林を県民の財産として認識していけるような使い方をしていきたい。



この後、質疑応答の時間には活発に意見や質問が出され、岡田氏は具体的な方法論に触れました。





# 「たばこ」のことをもっと知ろう学習会 in 千厩

生活環境部会は、2月23日（木）に一関市千厩町の旧葉煙草専売所の「せんまや街角資料館」と「酒のくら交流施設」を見学してきました。

当日は、会員11名が参加し、たばこの歴史や千厩町のたばこ生産について学習してきました。また、「酒のくら交流施設」ではお酒のいい香りがする中、旧横屋酒造の酒蔵を見学してきたほか同施設内で開催されていた「せんまや雛まつり」も見学してきま



した。昼食は、千厩名物の「あんかけカツ丼」を堪能し、大満足の学習会となりました。



今回の学習会をとおして、「たばこ」の起源がマヤ文明にまで遡ることや、岩手における「たばこ産業」の歴史、たばこを起因とする人体と環境への影響等について学ぶことができ、「たばこ」についてもう一度考える良い機会となりました。

# プラスチック処理施設見学

資源循環・廃棄物部会では、11月29日（火）にプラスチック処理施設（有限会社本荘クリーンセンター：秋田県由利本荘市）の視察研修を19名の参加で行いました。

本荘クリーンセンターは前沢・胆沢・衣川区から排出されたプラスチック製容器包装（その他プラスチック）を資源化している会社で、他に発泡スチロール処理、缶処理（スチール・アルミ）、ペットボトル処理（フレーク・ペレット化）を行う施設を有しています。

プラスチック製容器包装の処理では、マテリアルリサイクル（材料・製品としての再資源化）に適さないその他プラスチックを選別・洗浄後、木くず・紙くず・繊維くすなどと混合し、RPF（固形燃料）に生成することで、残渣の少量化に努めているとのことでした。



RPFは化石燃料と比べ低価格なうえ灰の発生も少なく、石炭やコークス等、化石燃料の代替として、大手製紙会社、鉄鋼会社、石灰会社などで利用されているとのことでした。

## 編集委員の独り言

これからのめぐみネットの活動の方向性を一人一人が考えながら参加した総会でした。

市民と共に、こちらから飛び込んで行ったり寄り添ったりしながら一緒にできることを探していく…その架け橋になれるような会報作りに編集委員一同新年度も心がけたいと思います。 若生和江

